

2. 家での学習の様子

①家での学習時間

平日の家庭学習時間が2時間以上である割合がこの11年間で10ポイント以上も減少し20.8%になった。また、休日の家庭学習時間の2時間以上の割合も、第2回調査の16.1%と比べて4.4ポイント少ない11.7%となった。これに対して、平日のテレビ視聴時間の2時間以上は75%前後で11年間ほとんど変化がない。

Q

- あなたはふだん（月曜日～金曜日）、家に帰ってから何時間くらい勉強しますか。学習塾や家庭教師について勉強する時間も含めてください。
- 日曜日は、家で何時間くらい勉強しますか。学習塾や家庭教師について勉強する時間も含めてください。
- ふだん（月曜日～金曜日）テレビを1日に何時間くらい見ますか。

表1-1-9は、「平日の家庭学習時間」「休日の家庭学習時間」「平日のテレビ視聴時間」がそれぞれ2時間以上である子どもの割合の11年間の変化をみたものである。この表でまず気づくのは、「平日の家庭学習時間」が2時間以上である割合が、11年間で31.3%→24.8%→20.8%と10ポイント以上も減少したことである。また、「休日の家庭学習時間」も、第2回調査の16.1%と比べて（第1回調査には該当項目なし）4.4ポイント少ない11.7%となっている。これに対して、平日のテレビ視聴時間は75%前後で11年間ほとんど変化がない。

さらに、表1-1-10で、第3回調査について、家庭での時間の過ごし方を詳細にみると、「平日の家庭学習時間」では、「ほとんどしない」が10.4%、「およそ30分」が29.9%

で合わせて40.3%となっている。小学生は家ではあまり勉強をしないことがわかる。また、「休日の家庭学習時間」は「ほとんどしない」が29.9%、「およそ30分」が28.6%であり、合計すると58.5%と6割弱に達する。学校完全週5日制が実施された後の小学生の学習時間をどのように確保できるのだろうか。最後に、「平日のテレビ視聴時間」は「3時間」が11.9%、「3時間30分」が6.8%、「それ以上」が32.4%もいる。これらを合計すると、51.1%と5割を超える子どもが1日に3時間以上もテレビを見ている。

性別には、「平日の家庭学習時間」「休日の家庭学習時間」とともに、「ほとんどしない」割合は、男子が女子よりも高くなっているのが特徴である。

表1-1-9 家で「2時間以上している」割合（時系列）

（％）

	第1回（2578）	第2回（2665）	第3回（2402）
平日の家庭学習	31.3	24.8	20.8
休日の家庭学習	—	16.1	11.7
平日のテレビ視聴	75.2	74.8	76.1

注1）—は該当項目なし。

注2）（ ）内はサンプル数。

表1-1-10 家での学習時間とテレビ視聴時間（性別）

（％）

	平日の家庭学習時間			休日の家庭学習時間			平日のテレビ視聴時間		
	全体 (2402)	男子 (1238)	女子 (1154)	全体	男子	女子	全体	男子	女子
ほとんどしない (ほとんど見ない)	10.4	13.9	6.7	29.9	34.4	25.0	2.0	1.5	2.5
およそ30分	29.9	31.3	28.2	28.6	25.8	31.6	3.8	2.9	4.7
1時間	23.5	23.6	23.7	20.4	20.4	20.4	8.6	7.9	9.4
1時間30分	13.8	11.5	16.3	7.7	5.5	10.1	7.9	7.2	8.8
2時間	7.3	5.8	8.9	4.5	4.3	4.7	15.9	17.3	14.6
2時間30分	3.9	3.1	4.8	1.9	1.6	2.2	9.1	9.9	8.3
3時間	3.7	2.9	4.7	1.7	1.5	2.0	11.9	11.4	12.4
3時間30分	1.9	1.6	2.3	0.7	0.8	0.6	6.8	5.7	8.1
それ以上	4.0	4.5	3.4	2.9	3.3	2.3	32.4	34.3	30.2

注）（ ）内はサンプル数。

②家での学習の様子

小学生の家庭での学習態度は、学校でのそれと同じように、まじめできちんとしている。家庭学習のけじめや計画性とかかわりの深い質問項目に対しては、「計画を立てて勉強する」の56.9%、「家族に言われなくても自分から進んで勉強する」の77.6%など、5割弱から8割弱の小学生があてはまると答えている。



あなたは家で勉強するとき、次のようなことをしますか。

表1-1-11は、家での勉強の様子についての回答を因子分析にかけて、析出された4つの因子に基づいて並べ直して示してある。結論から述べると、小学生の家庭での学習態度は、学校でのそれと同じように、まじめできちんとしている。

第1の因子は、「けじめ・計画性因子」でこの因子とかかわりの深い質問項目に対しては、5割弱から8割弱の小学生があてはまる（「あてはまる」と「まああてはまる」の合計。以下同じ）と答えている。つまり、小学生は比較的けじめと計画性のある家庭学習を行っている。あてはまると答えた割合がもっとも高かったのは、「何かを覚えるときには、読んで覚えるのではなく、書いて覚えるようにしている」の77.8%、第2位は「家族に言われなくても自分から進んで勉強する」の77.6%であった。安易で受動的な学習スタイルが広がっているのではないかという懸念がある中で、とても高い値であった。第3位が「机に向かったら、すぐに勉強にとりかかる」の63.7%、第4位は「自分で興味を持ったことを、学校の勉強に関係なく調べる」の63.4%、第5位が「計画を立てて勉強する」の56.9%、第6位が「予習をしてから授業を受ける」の52.8%、第7位が「授業で習ったことは、その日のうちに復習する」の47.5%であった。小学生の家庭での学習習慣はきちんとしているといえるのではないだろうか。また、第8

位の「ラジオやテレビ、CDをつけっ放しで勉強する」子どもは45.9%であり、“ながら族”は5割を切っていた。

第2因子は「まじめ因子」であったが、この因子と関係の深い質問項目は、「出された宿題をきちんとやっていく」が94.6%、「嫌いな科目の勉強も一生懸命する」が80.1%という高回答率が得られている。子どもたちの学習態度はまじめである。授業で習ったことをさらに発展して学習する「授業で習ったことを、自分でもっと詳しく調べる」子どもも54.8%もいる。

第3因子は「中途半端因子」であるが、小学生にはきちんとしてまじめであるが、中途半端に学習している部分もある。「中途半端因子」とかかわりの深い質問項目である「『勉強は学校だけですればいい』と思う」と答えた割合は32.9%であり、比較的少ないものの、「勉強していて問題の答えがわからないと、途中でやる気がなくなる」が53.3%いたり、「勉強していてわからないことがあると、家の人に聞く」に至っては91.9%もいる。子どもたちは自分の力で勉強をやり通そうとしない。また、自分一人ではない場所での学習、すなわち「居間や食卓で勉強する」が60.7%もいる。

第4因子は「がまん因子」である。「がまん因子」とかかわりの深い質問項目である「がまんして机に向かう」は53.8%であり、5割強

が勉強のためのがまんをしていると答えている。

性別には、ほとんどの質問項目で女子が男子よりも肯定的な家庭での学習をしている。ただし、男子のほうが肯定的であった項目に、「がまんして机に向かう」があり、女子が50.5%であるのに対して男子が57.1%であった。これは、男子はがまんしなければならな

いほど、家庭での学習を嫌がっているとみることができないのではないか。学校での学習態度だけでなく、家庭での学習態度も女子は男子よりも肯定的である。

続いて、第1回調査から第3回調査までの11年間の家庭学習の様子の変化をみてみよう。

表1-1-12で、「けじめ・計画性因子」「ま

表1-1-11 家での学習の様子（性別）

(%)

	全体 (2402)	男子 (1238)	女子 (1154)
「けじめ・計画性因子」			
何かを覚えるときには、読んで覚えるのではなく、書いて覚えるようにしている	77.8	73.5 <	82.5
家族に言われなくても自分から進んで勉強する	77.6	71.6 <<	84.4
机に向かったら、すぐに勉強にとりかかる	63.7	59.5 <	68.4
自分で興味を持ったことを、学校の勉強に関係なく調べる	63.4	62.1	64.8
計画を立てて勉強する	56.9	52.7 <	61.4
予習をしてから授業を受ける	52.8	49.8 <	56.1
授業で習ったことは、その日のうちに復習する	47.5	42.3 <<	53.4
ラジオやテレビ、CDをつけっ放しで勉強する	45.9	43.8	48.0
「まじめ因子」			
出された宿題をきちんとやっていく	94.6	92.0 <	97.5
嫌いな科目の勉強も一生懸命する	80.1	77.3 <	83.3
授業で習ったことを、自分でもっと詳しく調べる	54.8	51.0 <	58.9
「中途半端因子」			
勉強していてわからないことがあると、家の人に聞く	91.9	89.1 <	94.9
居間や食卓で勉強する	60.7	58.2 <	63.3
勉強していて問題の答えがわからないと、途中でやる気がなくなる	53.3	53.2	53.3
「勉強は学校だけですればいい」と思う	32.9	36.7 >	28.8
「がまん因子」			
がまんして机に向かう	53.8	57.1 >	50.5
家庭教師についている	3.9	4.4	3.3
「進研ゼミ」のような通信教育を受けている	20.1	16.5 <	24.1
「ポピー」や「アクセル1」のような宅配の学習教材をとっている	16.0	15.6	16.5
書店などで売っている問題集・参考書を使って勉強する	33.6	30.5 <	37.3

注1) 数値は「あてはまる」と「まああてはまる」の合計。点線以下の4項目は「あてはまる」割合。

注2) << >>は男女で10%以上、< >は5%以上差があるもの。

注3) () 内はサンプル数。

じめ因子」とかかわりの深い質問項目で肯定的な変化がみられた。すなわち、「家族に言われなくても自分から進んで勉強する」(第1回67.8%→第2回76.4%→第3回77.6%)、「予習をしてから授業を受ける」(43.8%→49.4%→52.8%)、「授業で習ったことを、自分でもっと詳しく調べる」(35.7%→55.9%

→54.8%)、「出された宿題をきちんとやっていく」(90.1%→94.5%→94.6%)、「嫌いな科目の勉強も一生懸命する」(71.2%→78.5%→80.1%)などと、小学生ははじめや計画性を持ったまじめな家庭学習をする傾向を強めている。

表1-1-12 家での学習の様子(時系列)

(%)

	第1回 (2578)	第2回 (2665)	第3回 (2402)	11年間の 変化
「はじめ・計画性因子」				
何かを覚えるときには、読んで覚えるのではなく、書いて覚えるようにしている	—	—	77.8	
家族に言われなくても自分から進んで勉強する	67.8	76.4	77.6	↑
机に向かったら、すぐに勉強にとりかかる	63.8	61.9	63.7	
自分で興味を持ったことを、学校の勉強に関係なく調べる	62.3	66.4	63.4	
計画を立てて勉強する	57.0	56.1	56.9	
予習をしてから授業を受ける	43.8	49.4	52.8	↑
授業で習ったことは、その日のうちに復習する	46.0	50.6	47.5	
ラジオやテレビ、CDをつけっ放して勉強する	43.3	47.7	45.9	
「まじめ因子」				
出された宿題をきちんとやっていく	90.1	94.5	94.6	
嫌いな科目の勉強も一生懸命する	71.2	78.5	80.1	↑
授業で習ったことを、自分でもっと詳しく調べる	35.7	55.9	54.8	↑
「中途半端因子」				
勉強していてわからないことがあると、家の人に聞く	—	91.2	91.9	
居間や食卓で勉強する	—	—	60.7	
勉強していて問題の答えがわからないと、途中でやる気がなくなる	—	57.4	53.3	
「勉強は学校だけですればいい」と思う	—	—	32.9	
「がまん因子」				
がまんして机に向かう	53.7	60.6	53.8	
家庭教師についている	3.8	5.7	3.9	
「進研ゼミ」のような通信教育を受けている	18.1	24.5	20.1	
「ポビー」や「アクセル1」のような宅配の学習教材をとっている	24.9	17.9	16.0	↓
書店などで売っている問題集・参考書を使って勉強する	—	33.5	33.6	

注1) 数値は「あてはまる」と「まああてはまる」の合計。点線以下の4項目は「あてはまる」割合。

注2) —は該当項目なし。

注3) 「11年間の変化」は、第1回と第3回を比べて5%以上変化のあったもの。

注4) ()内はサンプル数。

③日常生活の中での「学習」

日常生活の中での「学習」で、もっとも多かったのは「読みたい本を本屋さんで探して買う」の69.7%、続いて「文学・小説・物語・童話などの本を読む」が68.6%、「家でペットや動物・植物の世話をする」が62.7%であった。



あなたは、ふだん（学校の授業や宿題以外で）次のことをどのくらいしますか。

学習は読み書きそろばんに限定されるものではないし、学校で行う勉強や学校の勉強を補う勉強に限定されるものでもない。日常生活の中で、新聞を読むことや植物を育てることなども、子どもの知識や技能、感性を育てる意義深い学習である。ここでは、小学生は日常生活の中で広い意味での「学習」をどのくらいしているのかをみてみたい。

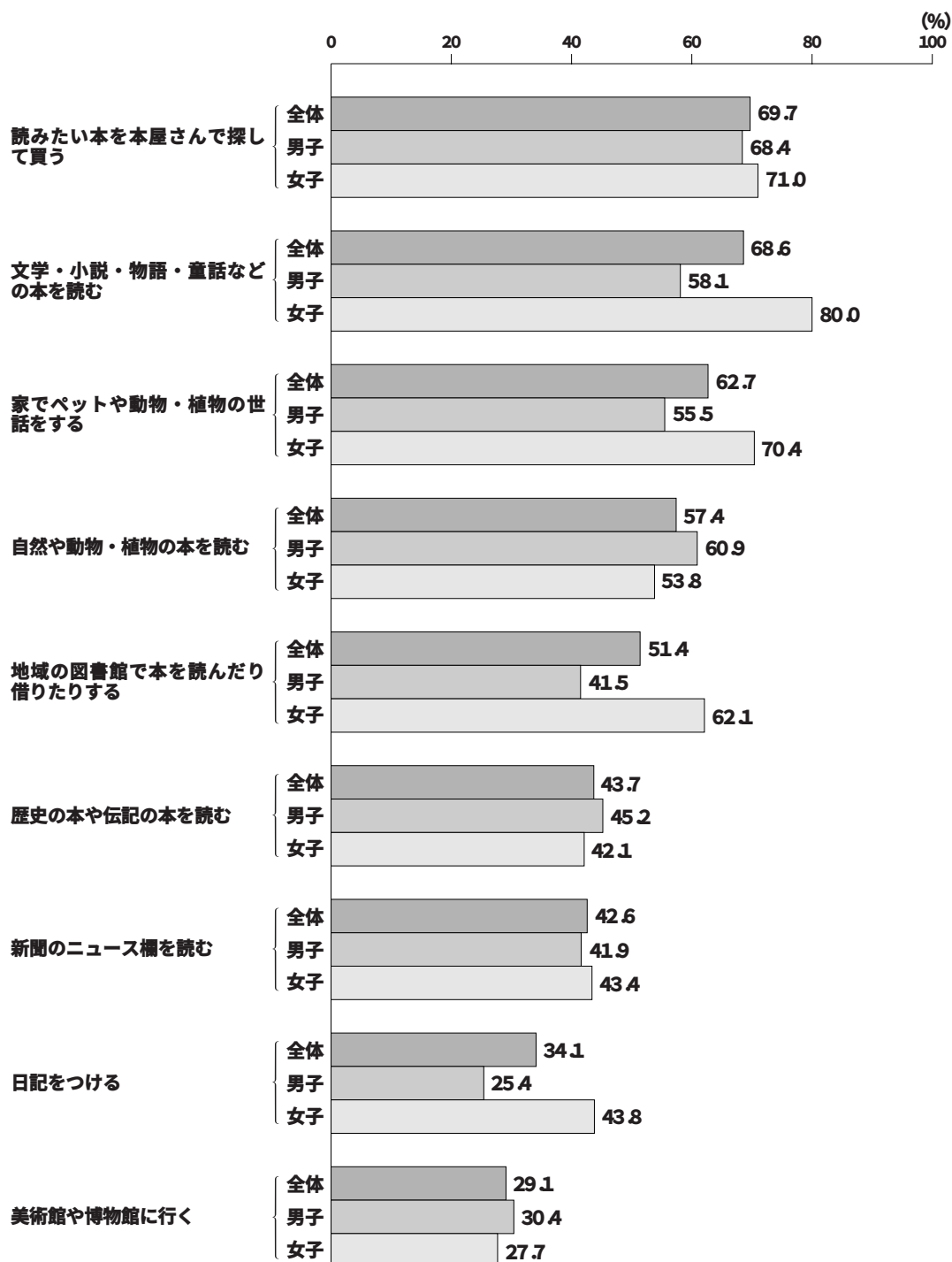
図1-1-8で、体験率（「よくする」と「時々する」の合計）がもっとも高かったのは「読みたい本を本屋さんで探して買う」の69.7%であった。続いて、「文学・小説・物語・童話などの本を読む」が68.6%、「家でペットや動物・植物の世話をする」が62.7%で、ここまですべてベスト・スリーであり6割以上の体験率であった。これに対してもっとも少ないのは、「美術館や博物館に行く」の29.1%で、続いて、「日記をつける」が34.1%、「新聞のニュース欄を読む」が42.6%、「歴史の本や伝記の本を読む」が43.7%で、ここまですべて5割未満の体験率であった。ちなみに、「自然や動物・植物の本を読む」は57.4%、「地

域の図書館で本を読んだり借りたりする」は51.4%と5割台であった。

また、同じ図で、「文学・小説・物語・童話などの本を読む」（女子80.0%対男子58.1%）、「家でペットや動物・植物の世話をする」（女子70.4%対男子55.5%）、「日記をつける」（女子43.8%対男子25.4%）、「地域の図書館で本を読んだり借りたりする」（女子62.1%対男子41.5%）など、動植物の世話や文学、日記、図書館の利用の項目で女子のほうが多く「学習」行動をしていた。反対に男子のほうが多かったのは、「自然や動物・植物の本を読む」で男子の60.9%に対して女子は53.8%であった。

表1-1-13で第1回調査と第3回調査を比較すると、「自然や動物・植物の本を読む」（第1回50.8%→第3回57.4%）、「美術館や博物館に行く」（23.2%→29.1%）、「日記をつける」（28.1%→34.1%）、「地域の図書館で本を読んだり借りたりする」（43.5%→51.4%）などが増加しており、日常生活の中での「学習」は豊かになる方向にある。

図1-1-8 日常生活の中での「学習」(性別)



注1) 数値は「よくする」と「時々する」の合計。

注2) サンプル数は全体2402人、男子1238人、女子1154人。

表1-1-13 日常生活の中での「学習」(時系列)

(%)

	第1回 (2578)	第3回 (2402)
読みたい本を本屋さんで探して買う	75.0	69.7
文学・小説・物語・童話などの本を読む	71.7	68.6
家でペットや動物・植物の世話をする	60.5	62.7
自然や動物・植物の本を読む	50.8	57.4
地域の図書館で本を読んだり借りたりする	43.5	51.4
歴史の本や伝記の本を読む	47.4	43.7
新聞のニュース欄を読む	40.9	42.6
日記をつける	28.1	34.1
美術館や博物館に行く	23.2	29.1

注1) 数値は「よくする」と「時々する」の合計。

注2) 第2回は該当項目なし。

注3) () 内はサンプル数。

④家庭環境

「お母さんは私の成績をよく知っている」（第1回85.8%→第2回77.9%→第3回77.4%）をはじめ、「お父さんは私の成績をよく知っている」「ほとんど毎日、家の人は私に『勉強しなさい』と言う」などが減少しており、親はかつてほど子どもの勉強を管理していない。



あなたの家についてお聞きます。

表1-1-14で小学生の家庭学習環境をみると、「自分一人の勉強部屋を持っている」のは39.1%。男子は35.2%、女子は43.5%と女子のほうが高い割合である。「ほとんど毎日、家の人は私に『勉強しなさい』と言う」のは40.4%。男子は46.5%で女子の33.6%よりも12.9ポイントも高い。「この1か月の間に、お父さんやお母さんに勉強をみてもらったことがある」割合は61.9%と6割に達しており、親に勉強をみてもらう割合は高い。親

が自分の成績を知っているかという質問に対しては、母親では77.4%に対して父親は54.2%と大きく下がる。また、広い意味での学習環境として、「お父さんやお母さんとよく話をする」は84.3%とおよそ8割、「家には本（マンガや雑誌以外）がたくさんある」は63.7%、「家の人に博物館や美術館に連れていってもらったことがある」は55.3%であった。

表1-1-14 家庭の学習環境（性別）

(%)

	全体 (2263)	男子 (1177)	女子 (1077)
家には本（マンガや雑誌以外）がたくさんある	63.7	59.6	68.1
自分一人の勉強部屋を持っている	39.1	35.2	43.5
ほとんど毎日、家の人は私に「勉強しなさい」と言う	40.4	46.5	33.6
この1か月の間に、お父さんやお母さんに勉強をみてもらったことがある	61.9	59.3	65.1
お父さんやお母さんとよく話をする	84.3	81.0	87.9
お母さんは私の成績をよく知っている	77.4	73.2	82.4
お父さんは私の成績をよく知っている	54.2	52.6	56.1
家の人に博物館や美術館に連れていってもらったことがある	55.3	53.2	57.8

注1) 複数回答。

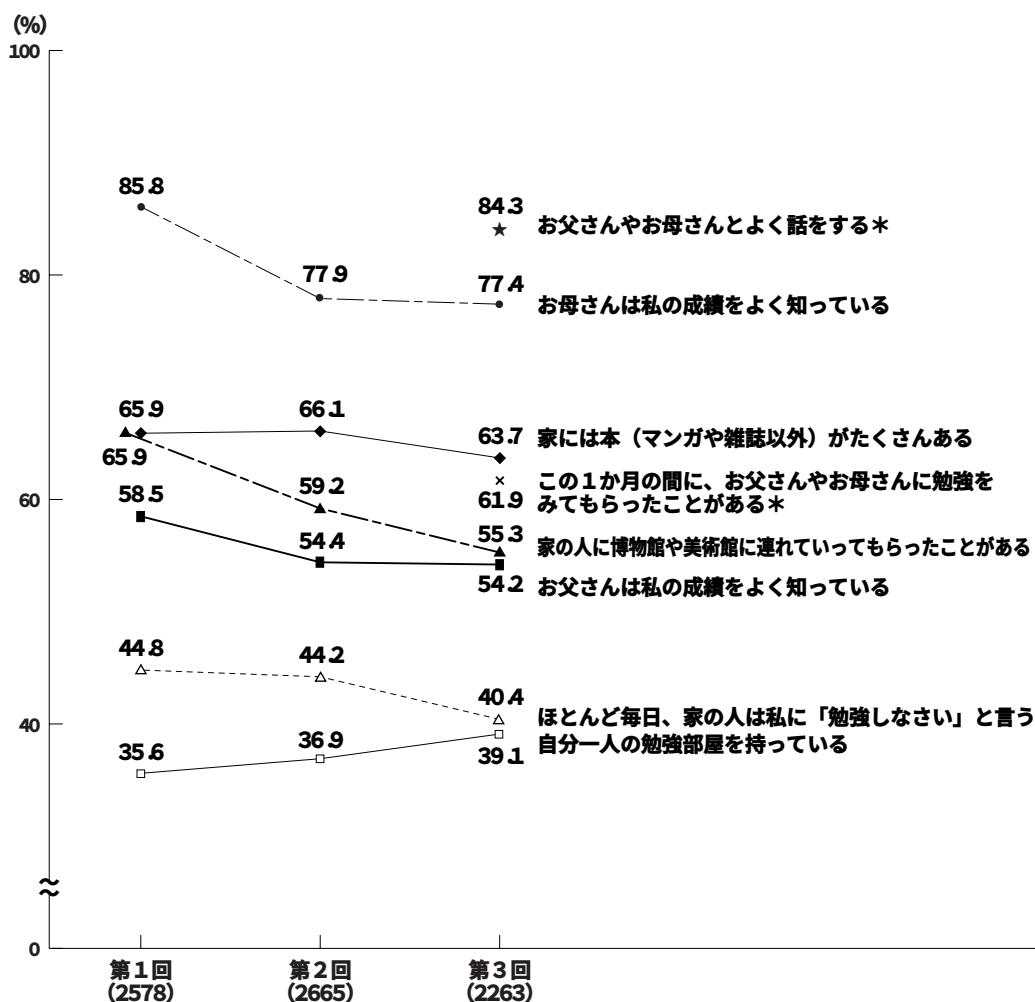
注2) < > は男女で10%以上、< > は5%以上差があるもの。

注3) () 内はサンプル数。回答を拒否した139名を除外して計算した。

さらに、図1-1-9で、11年間の家庭の学習環境の変化をみると、子どもの勉強に対する親のかかわりに関して、「お母さんは私の成績をよく知っている」(第1回85.8%→第2回77.9%→第3回77.4%)が8.4ポイントも減少し、「お父さんは私の成績をよく知っている」(58.5%→54.4%→54.2%)も4.3ポイント減少している。さらに、「ほとんど毎日、家の人は私に『勉強しなさい』と言う」(44.8%→44.2%→40.4%)も4.4ポイント減

少しており、親はかつてほど子どもの勉強を管理しないようになりつつある。また、「家には本(マンガや雑誌以外)がたくさんある」(65.9%→66.1%→63.7%)が2.2ポイント減少し、「家の人に博物館や美術館に連れていってもらったことがある」(65.9%→59.2%→55.3%)も10.6ポイント減少している。本調査のとらえた範囲のことであるが、狭い意味だけでなく広い意味での家庭の学習環境も低下している。

図1-1-9 家庭の学習環境（時系列）



注1) 複数回答。

注2) *は第1回、第2回に該当項目なし。

注3) () 内はサンプル数。第3回は、回答を拒否した139名を除外して計算した。